

学術フロンティア最終報告に向けて

日本大学松戸歯学部 学部長 大竹 繁雄

平成13年度選定学術フロンティア推進事業は17年度をもって終了することとなりました。私立大学学術研究高度化推進事業の一つとして事業化された学術フロンティア推進事業は、我が国の学術面における国際的競争力の向上を図るとともに産官学が共同して国民生活に役立つ研究の推進を意図したものと理解しております。

このような概念を基本構想として、本学におけるプロジェクトは、バイオサイエンスの研究からバイオマテリアルの研究まで包含する次世代の歯科医療を見据えた最先端の研究ならびに臨床応用が可能と考えられる先端材料・技法に関する研究を目標として発足いたしました。本プロジェクトに参加協力いただいた研究者は国内外を含め151名におよび、最終的には原著論文303編，著書等39編，学会報告503演題，特許申請は22件という多大な成果を得ました。そして，研究経過の報告会是一般市民を対象とした公開講座，国際シンポジウムを含め5回開催いたしました。

特筆すべきは，日本大学産官学連携知財センターの協力によって多くの特許申請がなされたことであり，従来では顧慮される事もなかった特許に対する観念が変化してきたことと，学内外の研究者との交流が盛んになったことであります。

これらの成果は，ひとえに各研究ユニットで研究に携わった諸兄の努力の賜物であります。そして，これらの成果は国民の健康生活の向上に役立つものと思われれます。さらに，本プロジェクトで整備された研究装置と研究設備を大いに利用して，今後の研究と新規材料・技法の開発に向けて皆様のご活躍を期待しております。